

国際武道大学研究紀要

第 38 号 (2022)

目 次

〈原著論文〉

林 園子, 青柳伸一郎, 藤生栄一郎

高校保健学習におけるヘルスリテラシー育成の検討

— 既習した大学生からみる保健学習の実態との関連より — 1

多田寿康

百歳の人の身体描写 15

〈研究報告〉

工藤昭子

眼前描写文と日本語教育 23

〈資 料〉

井上哲朗, 百武憲一, 大西基也, 岩井美樹

野球における守備位置決定理由に関する調査 29

原著論文

高校保健学習におけるヘルスリテラシー育成の検討 — 既習した大学生からみる保健学習の実態との関連より —

林 園子, 青柳伸一郎, 藤生栄一郎

要 旨

本研究は、高校保健学習においてヘルスリテラシー育成に向けた授業づくりの具体的な手立てを探るための基礎的研究として、保健学習をすでに学び終えている大学生を対象に、高校保健学習の実態の把握、保健学習ヘルスリテラシー尺度の作成、高校保健学習の実態と保健学習リテラシーの関連の3点について検討した。結果は以下のように要約される。1つ目に、対象者における保健の学びは、病気・ケガの予防、性知識・性情報、社会に出てからの生活の内容において、日常や将来の生活で実践しやすい傾向にあることが確認できた。また、保健学習全体を通して学びによる実践を行う者は、保健学習ヘルスリテラシーの意識も高いことが伺えた。2つ目に、保健学習ヘルスリテラシー尺度の検討より「F1: 情報採択力」「F2: 情報精査力」「F3: 情報啓発力」の3つの力が浮かび上がった。3つ目に、保健学習の満足度（楽しさ／好き嫌い／積極性）と保健学習ヘルスリテラシー尺度との関連より、この3つの力は、保健学習の「好き嫌い」及び「積極性」に関連することが認められた。これらの力を育成する保健学習は、生徒の保健学習への興味関心の向上や、積極的な取り組みに寄与し、学びによって日常や将来への生活で実践する態度を育てることができるといえる。

キーワード (Key words) : Health Literacy (ヘルスリテラシー), Health Education (保健学習), Practice Learning (学びによる実践), University Students (大学生)

原著論文

百歳の人の身体描写

多田寿康

要 旨

バルザックの初期小説『百歳の人』の主人公の一人である百歳の人についての身体描写を見て、体の各部分の描写からどのような特徴があるかを考察した。考察の対象は、体全体、頭部、顔の部分、背中、手足の描写である。その結果、この作品におけるバルザックの描写の特徴として、反復、対比、矛盾の3点が見られた。

キーワード：『百歳の人』、百歳の人、体、描写、反復、対比、矛盾

眼前描写文と日本語教育

工藤昭子

要 旨

日本語教育や日本事情において、体験型授業が注目されている。日本文化では茶道体験などがあるが、眼前の模範アクションを見ながら学ぶものには文化的学び（「体験型（授業）」）だけでなく、武道やスポーツを専門として学ぶ「専門型（授業）」もある。本研究では「眼前のイマ・ココで模範アクションとともに（動作主により）発せられた談話（眼前描写文）」の日本語学習者の理解を促進する要因を探ることを目的とし、本学で武道を学ぶ留学生に、半構造化面接調査を実施した結果を報告する。

調査の結果、初級学習者は、模範アクションと眼前描写文を聞いて、それぞれの模範アクションに合わせ、よりステップに沿った学習ストラテジーを用いていることがわかった。眼前描写文の理解促進には、日本語学習者による学習ストラテジーの他に、文化アナロジー、話者の意図理解、動作意図理解が関係していることが示唆された。眼前描写文には、当然理解しやすい内容と眼前学習だけでは学びきれない内容がある。後者については日本語能力を基礎力から応用力まで地道に積み上げ、日本語で知識を獲得できる能力を身につける必要があるだろう。

キーワード (Key Words) : Immediate description in front of eyes (眼 前 描 写 文), Japanese Language Education (日本語教育), Learning Strategies (学習方略), Speaker's Intention (話者の意図), Demonstrating Actions (模範アクション), International Students (外国人留学生)

資料

野球における守備位置決定理由に関する調査

井上哲朗, 百武憲一, 大西基也, 岩井美樹

要 旨

本研究では, 大学生野球部員を対象として, 現在の守備位置を決定した理由を調査し, 守備位置決定要因を明らかにすること目的とした。その結果, 以下のようなことがわかった。

最も経験年数が長かったのは, 投手と捕手で, 最も短かったのは, 三塁手であった。

現在の守備位置の開始年齢では, 最も開始年齢が早かったのが, 投手と捕手であった。最も遅かったのは, 三塁手であった。

現在の守備位置について自分から希望した割合で最も高かったのは, 投手であった。逆に最も低かったのは, 三塁手であった。

現在の守備位置について指導者の指示による割合で最も高かったのは, 三塁手で, 逆に最も低かったのは, 投手であった。

また, 左投げの選手は, 特定の守備位置になってしまっていた。

今後は, 各年代ごとや, 体力との関係について調査を行っていき, それぞれの特徴を明らかにし, 選手にとって適正な守備位置決定について検討したいと考える。

キーワード : 大学野球選手, 守備位置, 決定理由